



しょっぱい汗と、しょっぱくない汗があるのはなぜ

汗がしょっぱいの

汗の成分の99%は水で、残りの1%が塩・乳酸・尿素です。

汗は血液からできます。血液の中には塩分があり、血液の中の、液がしみ出してできたものが汗です。ですから、体の中の塩分が、汗に混じって体の外に出てきているので、汗はしょっぱいということが出来ます。

しょっぱい汗としょっぱくない汗ができるのは

全身の皮ふには、約200万個の汗腺(汗を出すところ)があり、エックリン汗腺とアポクリン汗腺の2種類があります。エックリン汗腺は全身の皮ふにあり、水分の多い汗を出して、体温の調節をします。これを、温熱性発汗といいます。

エックリン汗腺は、真皮の深いところにあり、つくられた汗は、長い管を通して外へ出されます。汗の量が少なく、汗が管をゆっく

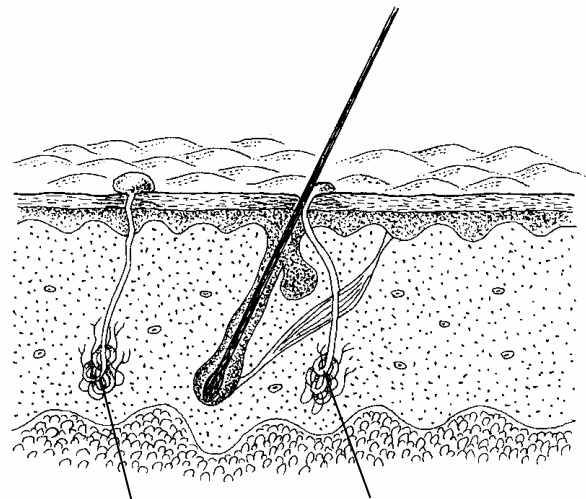
り通るときには、ここで塩分が吸収されてし

まうため、汗はほとんど塩分をふくまず外へ出るため、しょっぱくありません。ところが、

暑いときや、激しい運動をした後など、いちどにたくさんの汗が出るときには、汗が、管

を速く通ることになります。そのため、管で塩分を吸収することができず、汗は塩分を

ふくんだまま外へ出ることになり、しょっぱい汗になるのです。(監修・保志 宏)



エックリン汗腺

アポクリン汗腺

